

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-007

PDCA	事務事業名	消防団装備の充実・強化事業		部課等名	総務部 防災交通課 防災減災担当	担当	岩田	
						内線等	288	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節： 第1節 安全・安心な社会の形成						
		基本施策： 3. 消防・救急対策						
		単位施策： (3) 非常備消防の強化						
	根拠法令等	個別施策： ②消防団施設、装備の充実						
	根拠法令等	半田市消防団条例、消防団の装備の基準（消防庁告示）						
	対象・目的	消防団員が災害時に、安全かつ迅速な消防活動を行うために装備品の計画的な更新と強化を図る。						
	目的を達成するための手段・活動内容	消防団員が災害時に、安全かつ迅速な消防活動を行うため、消防庁告示消防団の装備の基準に適合した装備の配備を進める。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績			H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①防火衣の更新			-	-	36	着
		事業費					6,376	千円
		人件費					1,234	千円
		総事業費					7,610	千円
		活動単位当たりのコスト			H30年度	R1年度	R2年度	単位
	成 果	成果指標			H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①防火衣の更新	実績値	-	-	36.0	着	
			目標値	-	-	36.0		
			実績値					
			目標値					
			実績値					
目標値								
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	B						
		東日本大震災において、多数の消防団員が犠牲となったことを踏まえ、消防団員の安全確保のために装備品の充実、強化及び見直しが施された。この趣旨を踏まえ、火災現場で使用する防火衣は、長期間の使用による経年劣化があるため更新を行った。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持						
		消防団員の安全確保を図る上で最も重要となる防火衣について、火点への接近頻度が高い団員分の更新を行った。引き続き他の団員分の更新も計画的に進めていく。 これまでの災害から、消防団に求められる役割は大きく広がってきており、火災消火のみではなく、救助救難や、通信確保、現場指揮等様々な技能が求められる。消防団の実情に応じた資機材を計画的に配備、更新していく。						
	令和3年度の目標	成果指標				目標値	単位	
		救助活動、現場指揮用資機材の計画的配備						